

## 新型コロナウイルスを克服し、東京の未来を創るアイデア募集 一覧表

提案要旨は、提案様式内の「提案の概要」を転記した上で、他欄の記載内容を踏まえ、趣旨を変えない範囲内で財務局において編集したものであり、都が推奨又は効果を保証するものではない。

No.	提案事項	提案要旨
1	テレワーク義務化及び罰則制度の導入	障害者雇用率制度のように、テレワーク達成率を義務化して、達成していない企業（行政）は罰金を支払うという制度を作る。
2	テレワーク関係のインフラ整備への補助	企業のテレワーク関係インフラ整備に対して、都が企業へ補助金を交付する。
3	キャリアコンサルタント向け研修の実施	実務経験を踏めていないキャリアコンサルタント向けに一時的な養成講座を開設し、不安を抱えている学生や中小企業の社員を支援できる人材を増やす。
4	隣接3県でのサテライトオフィス建設促進	埼玉、神奈川、千葉にサテライトオフィスを建設した場合、補助金交付又は税制上の優遇措置を行う。
5	公園等を活用したスポーツジム、ライブコンサートの運営	ソーシャルディスタンスが保てるよう、ジムやライブコンサート向けに公園等の公共の場をレンタルできるようにする。
6	レストランのための歩行者天国の実現	レストランが路上にもテーブルを出せるよう、車道を夜間歩行者天国にする。
7	テレワーク機器のレンタル	中小企業がテレワークできるよう、必要な機器をレンタル可能とし、VPNへの接続設定を支援する。
8	レクリエーション予約制の導入	美術館、博物館、スキー場、山登りなどは必要な時間で予約制にする。例えば、美術館は2時間、博物館は3時間、スキー場、山登りは4～8時間など。
9	小規模飲食事業者のための歩行者天国の実現	歩行者天国を増やし、小規模飲食事業者が路上でサービスを提供できるようにする。歩行者天国により歩行者同士がより距離を取ることができ、子供が安全に遊ぶ場所も増える。
10	お香の周知	線香をはじめとしたお香の煙が、空気中に漂うコロナウイルスを殺菌すると考えるため、お香を社会に広める。

No.	提案事項	提案要旨
11	カラオケBOXのテレワーク活用	しばらく営業が難しそう、かつ営業が始まって大変なカラオケBOXをテレワークスペースとして提供できるようにする。
12	3密対策実施事業者情報公開サイトの立ち上げ	3密対策を実施している事業者（飲食店、ライブハウス、カラオケ店、スポーツジムなど）の情報を都がWeb上で広く知らせることにより、利用者が安心して入店できるようにするとともに、事業主の取組を促す。
13	経済的に困難な状況にある若者にアルバイトの機会を提供	大学生や失業中の若者に、学校や公共施設で非常勤職員として働く機会を提供する。
14	電車・バスの殺菌及び消毒	メーカーと連携し、次亜塩素酸水を用いて電車やバスの車内の空気を殺菌、消毒する。
15	密状態からの脱却 / 東京からの仕事移動	テレワークを企業に促すなどの取組により、東京でないとできない仕事以外は、都外でもできるようにする。
16	労働時間の縮減による免疫力の向上	週40時間労働制の厳格な運用、賃金の引上げによる無駄な残業の抑制、労働者に配慮のない出張指示の禁止の取組により、社員が規則正しい生活を送ることができるようにし、免疫力向上につなげる。
17	免疫力向上手法の広報	ストレス軽減を目的に行っている広報・仕掛けについて、適度な運動、十分な睡眠、食生活など、免疫力向上へつなげることの説明を加える。
18	通勤・通学の制限、小中高生向け専用車両の設定	都内に乗入れする鉄道について、乗車チケットを事前購入制とし、事業者ごとに社員比率に応じて通勤定期券の発行を割り当てるとともに、利用できる時間帯を制限する。また、小中高生用の専用車両を設定する。
19	電車の増発、鉄道料金の均一化	増発の余地のある路線の電車の本数を増やして、混雑する路線からの迂回を促す。また、都営地下鉄やJRの料金が他路線よりも高額であり、交通費が安いから乗客が更に多くなっている路線があると考えため、料金を揃えることで混雑を平均化させる。
20	時差通勤の推奨	今後も9時始業を社員に守らせる企業があると想定されるため、企業向けに都が時差通勤を強く推奨し、電車の混雑状況を変える。
21	紫外線の殺菌・抗ウイルス効果の研究・活用	紫外線の殺菌・抗ウイルス効果の研究や、人工的に紫外線を作り出す装置の利用、太陽光の紫外線の活用を進める。

No.	提案事項	提案要旨
22	入国制限下での永住者の再入国許可	水際対策としての入国制限下でも特別永住者に日本への再入国を許可しているのと同様に、永住者についても再入国を許可すべき。
23	緊急事態時対応人材の事前登録、自衛隊の活用促進	緊急事態時に大学生や高齢者等が保健所の電話対応等の業務に従事できるよう、こうした人材が事前登録できる仕組みをつくる。また、コロナ禍では自衛隊の活躍が感じられなかったため、自衛隊を更に活用すべき。
24	買占め・転売禁止の条例策定	第二波・第三波への備えとして、生活必需品や日用品、医療用品、保存食品の一定以上の購入・高額での転売を禁止する包括的な条例を制定する。
25	フェイスシールド義務化でコンサート再開	コンサートは主催者がフェイスシールドとマスクを配布し、観客同士の間隔は必要最小限度とする。また、チケット販売時に本人しか入場できないようにして、クラスター発生時に接触者を把握できるようにする。
26	オンライン授業、学習支援のためのアプリケーション開発	都内のIT企業やゲーム会社と連携し、子供の学習意欲を高めることのできる教材アプリケーションの開発を行う。
27	新型コロナウイルス流行下における安全なケアマネジメンの在り方	ケアマネ業務（サービス担当者会議等）のオンライン化、ICTシステム導入・活用への補助や支援、業務負担軽減に向けた国への提言・要望、介護支援専門員資格の有効期間（5年）の延長、更新にかかる負担への支援を進める。
28	全都民の定期的抗体検査	抗体検査キットを集約・管理するアプリを開発し、都と都内各ドラッグストア、薬局をデータベースでつなぐ。都民は2週間ごとに最寄りのドラッグストアで検査キットを受け取って検査を実施する。あるいは、全世帯へ検査キットを配布し、2週間ごとにアプリで検査結果を報告してもらう。
29	サルベージFOOD TOKYO	失業者が増える中、コンビニやスーパー等で廃棄しなくてはならないがまだ食べることができる食材を飲食店に配布し、困窮者には無償で提供する。
30	ウイルス感染の有無の確認システム構築及び病院敷地内への電話ボックス型検査ルームの設置	医療機関や高齢者施設の敷地内、保健所の近くに電話ボックス型の検査ルームを設置し、検査結果が保健所にリアルタイムで伝わるようにする。
31	オリンピック選手及び観客への大量検査	オリンピックの観客1000万人、選手1万人を検査する。
32	乗車人数やナンバープレートによる都心部への自動車乗入れ制限	シンガポールの事例を参考に、都心部への自動車乗入れを減らすため、時間帯によって1台に3人以上乗っていない車の乗入れを禁止、または課金する。また、北京市の事例を参考に、自家用車利用をナンバープレートの末尾が奇数が偶数に分けて都心部への自動車乗入れを制限する。

No.	提案事項	提案要旨
33	視覚効果による満員電車への認識の変容、電車内の乗客の間隔確保	つり革を少なくしたり、車体を丸くするなどの視覚効果により、満員電車でもまだ乗れるという乗客の固定概念を変えていく。また、手すり・つり革の間隔を広げる、木材などウイルスが付きにくい素材に変える、一席ごとに敷居を作るといった取組を行う。
34	空き部屋を活用したテレワーク促進	社員の自宅の近くに空き部屋を利用したりリモート支所、拠点を作る。
35	時差出勤・サマータイム制度、労働時間の短縮	時差出勤を徹底し、サマータイム制度を導入する。また、1日の所定労働時間を8時間から減らす。
36	通勤電車への専用車両の設定、企業ごとに出勤・勤務時間帯の区分け	妊婦、ベビーカー専用車両、女性専用車両、50代以上車両、学生車両等、車両に目的を持たせる。また、月・水・金は通勤、何時～何時を勤務時間とするなど企業内で区分けを義務付け、人や会社を分散化する。
37	自転車シェアリングサービスの利用促進	自転車のシェアリングサービスにおいて、市区町村別にポイント制を導入し、専用アプリを開発する。
38	通勤時間ロードマップの作成	休業要請のロードマップのように、通勤時間の（規制を段階的に解除する）ロードマップを作成する。
39	電車、新幹線、飲食店への仕切り板の設置	電車、新幹線、飲食店に、アクリル板やビニールシートなどで仕切りを設ける。
40	電車の定員制、予約制の導入	電車はしばらく定員制とし、ネットで事前予約できるようにする。
41	仕事の出来高評価	効率と売上げを向上し、無駄な会議や出張、残業を減らすため、時間給ではなく歩合、出来高評価にする。
42	マイナンバーカードの取得促進	定額給付金の支給を今後行う場合は、マイナンバーカードを持っていない人はその場で発行（その際地域や年代別で日時を分ければ混雑回避）し即時給付する。
43	給付事務作業の迅速化	定額給付金の支給のような事務作業は、速やかに短期の従事者を募集をし、在宅で入力などの作業を可能とすることで、給付までの時間を短縮化する。個人情報保護のため、予め登録している方から従事者を募る。

No.	提案事項	提案要旨
44	学習スタイルの変更による授業時間削減・学習効率向上	授業時間削減と学習効率向上のため、教材を渡し家庭で子供たちが自ら解き、学校で復習するというスタイルへ変更する。
45	コンビニ等の営業時間の短縮	コンビニや複合施設が24時間営業であることの必要性を感じなくなったため、営業時間を短縮する。
46	新しい東京都の店舗様式	店舗内の透明アクリル板、透明シートに人気キャラクターや広告等を掲載する。また、透明アクリル板等にイラストを載せられるようにし、そのコンテストを開催する。
47	高齢者が外出しやすい街づくり	高齢者が外出しやすい街づくりとして、昼間に高齢者専用車両を設定するとともに、すべての支払いに対応が可能なカードを作成する。
48	夏コロナ対策 日傘男子 推進プロジェクト	マスクが着用しにくくなる夏期における感染拡大防止策かつエコな熱中症対策として、日傘の利用を推進する。特に、現在利用がほとんどない男性の日傘利用を積極的にアピールする。
49	隔離施設の整備	オーストラリアのクリスマス島のように、通常時リゾートとして使用可能な宿泊施設を、感染症発生時に隔離施設として使用できるように設計する。
50	医療用消耗品のローリングストックの啓発	都内の公共施設・大規模ビルに災害時の備蓄品と併せて医療用消耗品等を備蓄する。各家庭にも災害時の備蓄品と併せて、衛生用品をローリングストック方式で備蓄するよう広報を行う。
51	食料急速冷凍設備及び倉庫の整備	農産物を廃棄しないよう、生鮮食料の急速冷凍設備と倉庫を整備する。食料自給率の向上にもつなげていく。
52	感染経路追跡システムの開発	国民の位置情報、決済履歴の活用や、スマートウォッチによる体調管理等を通じて、感染者の早期発見につなげる。感染者の行動履歴や地域の感染動向等から感染多発地域となり得る可能性のある地域をAIを活用して推定し、確認された地域へPCR検査を集中的に実施する。
53	通勤時間帯の電車予約乗車制の導入	満員電車を解消するために、通勤時間帯の電車予約乗車制を導入する。
54	新しい東京都の店舗様式②	席の間隔を広げるなど感染拡大防止のため生じた店舗内の空間を、一体感や来店への楽しみを増やす観点から、都立学校、専門学校、大学生などの活動発表の場として活用する。

No.	提案事項	提案要旨
55	STAY HOME週間	一か月のうち週休日・祝日をまとめ、3週間の経済活動期間と1週間の自宅待機期間に分ける。
56	経済を動かしながら、感染爆発を絶対に阻止する方法!!	飲食店、スポーツクラブ、観光施設等様々な施設へ、一人あたりの施設利用時間に上限を設ける「タイムゾーニング」とアクリル板で仕切りを行う「スペース・ゾーニング」を導入する。
57	街中「antivirus 実施店」表示	飲食店をはじめとする街中の接客業の店舗に、「antivirus実施店」プレートを配布することで（「free Wi-Fi」表示のイメージ）、利用者が安心して店舗を選べるようにするとともに、店舗側の意識を向上させる。
58	水分摂取推進のための穴あきマスクの製品化及び持ち歩きストローのすすめ	不織布マスクにストロー穴が空いている形状のマスクを製品化するとともに、使い捨てプラスチックストロー削減のために持ち歩きマイストローをセット販売する。
59	日本に住む外国人に正しい情報を母国語で届ける放送局をつくる	在日外国人向けに有用な情報をわかりやすく届けるため、多言語化した情報をオンラインで配信する。
60	COVID-19患者に高圧酸素療法を適用する可能性の研究	中国や米国では高圧酸素治療装置（HBOT）でのCOVID-19患者の治療や臨床実験が行われているので、日本でも研究するべき。
61	出入国者に対するウイルスチェック	空港、港などにおいて、医療チームや建設メーカーと協力して、入出国の動線上に検査・クリーンルームを設置する。
62	小・中・高校生の自宅学習環境整備	東京都内の小・中・高校生自宅にインターネット環境を完備する。また、プロバイダーの協力の下、監視・管理によりネット犯罪から児童・学生を守る部署を創設する。
63	ソーシャルディスタンスを取らずにクラシックコンサートに来ていただくための工夫	コンサート会場において着用するフェイスシールドに映像を見る機能等を追加するとともに、振動、におい、風などを感じられるような環境整備を行い、新しい音楽鑑賞のスタイルを築く。
64	空き家や空き店舗等を活用したテレワークスペースの整備、通勤バスの増加	レンタルオフィスの借り上げ、空き家や空き店舗等の改装により、事業主が従業員の住居地付近にテレワークスペースを整備できるよう、法整備を含めた支援を行う。また、工場やショッピングセンター等の出勤者に対して通勤バスを用意することで、公共交通機関の利用を減らす。
65	ジャパン・レール・パス等の利用資格の拡充	訪日外国人旅行者が購入できるジャパン・レール・パス（JRグループ6社が共同して提供する特別企画乗車券）等を、日本人や永住者も購入可能とする。

No.	提案事項	提案要旨
66	オリンピックに向けた新型コロナウイルス感染症抑止のための遠紫外線C波ランプの活用	除菌効果が高い遠紫外線C波（紫外線LED）ランプの設置助成や公的機関による積極的な設置を行う。
67	会話の飛沫感染リスクを軽減するためのスピーカーフォン等の活用	大声を出す業種の従事者（幼稚園、学校等の教師等）はスピーカーフォンやインカムを使用し、極力大声を出さない環境を作る。また、電機メーカーによる日常使用の手軽な携帯スピーカーフォンの開発を促すとともに、スマホアプリのスピーカー機能等を世間に浸透させ、会食時や会話等で日常的に使用する。
68	上限乗車率の設定による満員電車の解消	満員電車による感染リスク低減のため、改札で乗車人数を把握し、あらかじめ定めた乗車率を超える場合、乗車不可（改札で入場規制）とする条例を策定する。
69	新型コロナウイルス接触確認アプリの活用	感染者に接触した人はイエローサイン、一定期間経過後にブルーサインへ移行、のような感染の可能性を色分けするサイン表示機能を国の新型コロナウイルス接触確認アプリに追加する。サインは映画館やライブ等への入場可否の判断に活用する。
70	飲食店での「No BGM」「Less BGM」の推進	店内BGMを無くし店舗内の「マスク効果音」を敢えて外すことで、店内の全体的デシベルが下がり大声を出す必要がなくなるため、飛沫感染リスクが減少する。また、著名人の呼びかけによる、「No BGM」「Less BGM」などをキーワードとしたSNS等での拡散運動や各店舗による自作ポスターの公募により、社会的ブームを誘発する。
71	人流センサープラットフォームの構築	GPSやビーコン（信号発信器）等で人の動きを把握しクラウドへ集約することで、感染症発生時のクラスター分析等に活用する。多種多様な社会課題にゲーム的に参加できる受け皿コンテンツを多数用意し、市民からの自発的な参加を促すため、分析のフィードバックに合わせた行動変容が起こりやすくなる。
72	会話時の飛沫の抑制	飛沫感染防止のため、口腔内に吸水ポリマーを入れるなどして、会話時の飛沫を抑制する。
73	飲食時におけるマスクの代替手段	飲食時、マスクの代替として、前歯にプラスチックをつけるなどして、前方への飛沫を抑制する。
74	コロナ治療に特化した簡易プレハブ設置	軽症、重症患者用病棟、PCR検査の場として、大規模な公園等に簡易プレハブを設置する。
75	データドリブンで導く新たな生活様式及び感染拡大防止の実現	保健所等での感染者及び濃厚接触者へのヒアリング内容の統計データ化及び分析を行い、メリハリのある新たな生活様式を導き出す。また、行動履歴アプリによる情報蓄積から、徹底的な感染拡大防止策を実施する。
76	コロナ対策に係る費用の財源について	都がコロナ対策にかけた費用について、相当程度、旅行・ホテル業界に弁済してもらう。

No.	提案事項	提案要旨
77	指導業務中心の都立・公社病院遠隔医療センターの設置	医療現場での業務軽減や病院間の指導精度の均一化等を図るため、栄養指導等の指導業務を中心とした都立・公社病院遠隔医療センターを設置する。遠隔指導も可能なため、指導室内での密の回避にもつながる。
78	質疑等のWeb移行と取りまとめ部署の創設	議会の答弁や記者会見をWebへ移行し、質問は都議や記者がWeb上での書き込みで行う。また、広報や都民からのフィードバック等を取りまとめる専門の部署を設置する。
79	人材流動化基盤の構築	個人・企業のプロファイルを管理し、求職者と企業の求人ニーズをマッチングできるプラットフォームを構築する。オンライン面談やユーザー同士のサポート制度を導入するなど、コミュニティとしての就労アドバイス基盤を醸成していく。
80	感染者及び疑いのある患者の一か所集中治療	他の患者への感染を防ぐため、感染者及び疑いのある患者を一か所に隔離し集中的に治療する。専門の医師を集中的に投入することで、効率的な治療が可能となる。
81	簡易で安価な飲食店及びオフィス向け組立式パーティションの普及	プラスチック等の部材組立による簡易で安価な透明パーティションを普及させることにより、飲食店やオフィスにおける導入が容易となり、感染拡大防止に寄与する。
82	豊かな心の育み・復活	農林水産業や介護・福祉といった実践的な現場で若者が集団生活するプロジェクトを立ち上げ、公的な支援を行うことで、若者の豊かな心を育てる。
83	CompTIA CTT+等の資格試験料免除	CompTIA CTT+（インストラクターが、トレーニングを実施する上で必要とされるスキルを取得していることを示す民間の認定資格）のような資格の試験料を免除するなどの取組により、生徒へのオンライン授業が可能な職員を増やす。
84	飲食店での段階別コロナ対策	レベル1：ナイロン付き帽子着用義務化、レベル2：レインコート・手袋・靴袋着用義務化、レベル3：アクリル板設置のように、飲食店での段階的な対応を定めることで、安心して客に来店してもらう。
85	ホコ天ビアガーデン化計画	歩行者天国を夜間帯に実施した上で、参加企業を募り料理や酒の提供を行うことで、ビアガーデンのようにする。
86	電話でのコロナ感染症対応をSMSを活用したスマホ・タブレットでの対応に変更	新型コロナウイルスへの感染を不安に思う方への対応を電話連絡から、電話番号を使用したショートメッセージサービス（SMS）に変更し、コピー＆ペースト機能を活用した電子データ処理へ移行して業務効率化を図るとともに、電話がつかないといった事態を防ぐ。
87	騒音解消に向けた廃品回収車等の取締り	テレワークや外出自粛が呼びかけられている現下の状況を踏まえ、住宅街の音環境を改善するため、廃品回収車等によるスピーカー音量の取締りを行う。



No.	提案事項	提案要旨
88	TOKYO LIFE UNIT (21世紀の長屋)	3密を回避するため、5,000人程が居住するユニットを形成し、人口1,400万人の都市を震災や疫病から守り、サステナブルな豊かで楽しい住社会をつくる。ユニットには、地震に強い低層階長屋を放射状に並べ、中央に銭湯、リモートメディカルルーム、保育園、イベントルーム、食堂などを設置。様々な災害時に野菜作りや食料保存など自主的に活動できる体制とする。
89	下駄箱付近での密集回避	巻き付く反射バンドを活用し、足を入れるとかかとかが自動的に締まる靴を開発することで、学生が下駄箱付近で密集することを防ぐ。
90	無症状病原体保有者から多岐症状における漢方薬による予防と治療	東洋医学の考え方による漢方薬でのアプローチにより、無症状病原体保有者のメンタル（鬱状態）も踏まえた内因性の症状や軽症者罹患付随症状の改善を図る。
91	美容室における耳ひもを使わないマスク着用の促進	美容室での感染拡大を阻止するため、美容室でも一切マスクを外さずに施術ができるよう、マスクを耳にかけず顔にサージカルテープで固定する方法を周知することで、美容室でのマスク着用を促進させる。
92	飲食店等向けの卓上組立式パーティションの普及促進	飲食店等向けに、安価で使いやすい卓上簡易組立式パーティションの開発及び普及啓発を行う。
93	非常駐型の検温・一次スクリーニングソリューション	発熱者を入館させない水際対策として非常駐型の検温システムを建物入口に配置することで、ソーシャルディスタンスを保った一次スクリーニングを可能とする。
94	停止中エレベーター扉の開放	各階に停止中のエレベーター扉を常時開けておくことにより、エレベーターでの感染リスクを減少させる。
95	医療・福祉分野の従事者への税制度特例の新設	コロナ禍や高齢化により介護業界は人材不足であり、現在働いている方に業務を集中せざるを得ないが、所得税の課税対象となることを避けるため就労調整を行うケースがあり、更に人手不足となっている。医療・福祉分野従事者への税制度の特例を設けるべき。
96	空き家を活用した郊外型サテライトオフィスの設置	郊外にある空き家を利用して、感染症対策が施された一人用の完全個室が提供できるサテライトオフィスを多数設置する。
97	アイデア募集を新しい都政参画のチャンネルにする	本アイデア募集について、毎月募集し広報誌やWebやSNSなどを用いて紹介することで、新しい都政参画のチャンネルにする。大賞や佳作の受賞者へは地域振興電子マネーを配布する。
98	アバターをテーマにした屋内型テーマパークの設置	東京駅前に「障害者・高齢者が活躍できる社会作り」を目指した、アバター（ネットワーク上の仮想空間でのユーザーの分身）や仮想空間技術の世界観が体験できる拠点を作る。科学技術館の様な体験型展示場と企業／大学のデモルームを併せた施設に、研究室、工房、会員企業と学生向けのカフェを設置し、大学はプログラミングや工学を学べる講座を開設。産学連携による共創知とイノベーションの発信源とする。

No.	提案事項	提案要旨
99	リモートインTOKYO 蛭舞う東京	自宅にいながらも多くの絵画等を鑑賞できるようなネット美術館（リモート美術館）を設立し、今まで紹介しきれていない東京を世界に発信する。特に、「蛭」を美術館のテーマとすることで、蛭が住める自然と共存する東京を世界にアピールすることができる。
100	スマホ等による新型コロナウイルス陰性者認証	都民全員がPCR検査を受けられるようにし、検査で陰性と判定された人を都が認証し、スマホ等でも結果を確認できるようにする。この認証を受けた人は、移動・活動自粛要請の対象外とする。
101	玉子酒のすすめ	玉子酒（酒1合、生卵1個、砂糖適量を煮立て、アルコール分を飛ばして作る）を飲むことで自身の免疫力を高め、新型コロナウイルス感染症に打ち勝つ。
102	ポイ捨てゴミゼロ～衛生的な街づくり～	マスク、ティッシュ、タバコ等の感染のおそれがあるポイ捨てを防止するため、街中にゴミ箱を増やす。スポンサーをつけることで、設置・ごみ回収までをスポンサー収入でまかなう。
103	コロナ専用仮設病棟の設置	国立競技場や都有地に、新型コロナウイルス感染症患者専用（軽症、重症者用）の仮設病棟を設置する。
104	学校・保育園職員の定期PCR検査	子供への感染防止のため、学校や保育園に従事している教職員に、無償かつ定期的にPCR検査を受けられる環境を整える。
105	飲食街・飲食店への手洗い施設の設置支援・設置義務化	飲食街各所への水洗式「簡易手洗い場」への設置を支援するとともに、大規模店舗には設置を義務化することで、基礎的な感染症対策である「流水による手洗い」を普及させる。
106	自動車駐車スペースの増設	自動車を所有しやすい環境を整えるために、自動車が駐車できるスペースを道路脇に多く作ることで、税収の増加や自動車メーカーの業績改善を見込む。
107	求職者へのPCR検査の実施	求職者に対しPCR検査を実施し検査の証明書を発行するなどして、安心して雇用できる人材と企業を結ぶネットワークを創る。
108	感染拡大懸念段階における中規模以上企業のテレワーク義務化及び罰則制度の導入	緊急事態宣言が発出されなくとも感染拡大が懸念される段階において、接触機会の減少のため、中規模以上の企業にテレワークを義務化し、テレワーク実施率が低い企業には罰金や企業名公表等といった罰則を規定する条例を制定する。
109	高齢者の生涯学習継続支援	高齢者の心身の健康と社会活動を守るため、①安全に学習できる施設のリストアップと広報、②施設への安全衛生対策指導と補助金支給、③学習者活性化のための援助、費用負担、④ITリテラシーの強化及びオンライン講座への参加支援といった取組を実施する。

No.	提案事項	提案要旨
110	都庁の行政機能の分散化	新宿エリアの人口過密を解消するため、都庁等の行政機能を都内6か所程（第一東京市から第六東京市）に分割して配置する。
111	電柱、水車を活用した災害時電力の確保	災害時の電力確保のため、電柱にソーラーパネルを設置し、また、用水路に水車を取り付けることにより、バッテリーに蓄電する。
112	耕作放棄地を活用した街づくり	新しい街づくりとして、病院や商業施設のそばに高齢者向けの住居を整備する。耕作放棄地を貸与又は譲渡して協力企業にて農産物を作り、貸与者又は譲渡者はその代わりに当該住居に住む権利を得ることができる。
113	車載器を使用した交通情報の把握	タクシー会社やバス会社と協力し、車載器によるオンタイム映像を活用し道路の混雑状況の把握等に役立てる。
114	ソーシャルディスタンスを取りながら緩やかに繋がれる街づくり	人と自然に距離を取れるように、広々とした歩道や街角にちょっとした緑地・公園・空地を設けた「空間のゆとり」「都市の余白」のある街づくりを行う。
115	日本感染症ウイルス対策ネットワークの立ち上げ	感染症に広域的に対応するため、行政・医療・研究機関を取りまとめる総合的な感染症対策センターを設立し、感染源（感染ルート）の撲滅、医療人材・検査体制の充実、感染者受入設備、ワクチン・薬の開発、対応資金の充実等の役割を付与する。
116	人類の絶滅まで生き残れる多様なガーデン都市：東京を創る	テレワークに伴い空室が目立つようになった都心の古いオフィスビルを解体撤去し、緑あふれる街づくりを行う。また、空き家をリストアップし、都心から郊外への移住を推奨する。築年数が古い家屋については耐震診断を行い、耐震補強工事に必要な経費は購入希望者が負担する。
117	都内行政区分の変更、公共交通機関のゾーン制導入及び医療施設等の地域均等配置	都内行政区域を①首都機能区②周辺特別区③武蔵野④西多摩⑤伊豆小笠原諸島に区分し独立性を高めた上で、区市町村の単位を現行より小さくする。公共交通料金は、同一区域（ゾーン）内は同一料金とする。基幹病院や医療施設、高等教育機関、文化施設を地域ごとに均等に分布させる。
118	日常とるべき行動の見える化	感染を防ぐための行動を、イラストなどを用いて場面ごとに具体的・簡潔に見える化し、WebやSNSなどで広範囲の人々に伝えることで、人々の行動変容につなげる。
119	ウェブカメラによる東京2020大会観戦枠の設定	東京2020大会について、観客の密集状態を回避するため、現地観戦・TV視聴に加え、観戦会場に複数設置したウェブカメラによるリモート観戦枠を設定する。
120	発想を逆転しよう！東京24.0	3密回避のため、東京都の施設・役所・関連施設を全て24時間営業とする。サービス業の深夜活動を奨励し、日中の活動人数の分散や夜間経済活動の活性化を図ることで、経済成長につなげる。

No.	提案事項	提案要旨
121	教育と仕事のリモート化	児童にタブレットを配布し、インターネット授業を早急に行うとともに、テレワークを更に強かに推し進めることで、在宅での安全な教育・仕事を可能とする。
122	まけるなコロナみんなで応援マップ	飲食店や商店の経営状況を色分けし、ウェブ上で確認できるようにすることで、厳しい状況にある店舗を支援する。
123	確定申告無しで自動で寄附完結システム	東京都へ寄附した場合に確定申告しなくても税額控除が行われるようにする。併せて、新型コロナにより経営悪化した会社を支援するための寄附金制度を設立する。
124	事業者向け「感染防止徹底宣言ステッカー」	社内環境コロナ対応（出社人数制限、アクリル板の設置など）や、テレワーク、時差出勤、自動車・自転車出勤の推進など、オフィスでのクラスター発生防止対策を行っている企業に対して、ステッカーを配布する（飲食店等向け「感染防止徹底宣言ステッカー」の企業版）。
125	野外ステージの設置	芸術活動が困難となっている状態を改善するため、神奈川県や埼玉県等と共同で、河川敷や海岸に大小様々なステージを設置する（仮設も可）。設置に必要な費用は募金により賄う。
126	学校のオンライン化の促進、教育を受ける側の選択肢の拡大	学校のオンライン授業を充実させるとともに、学校へ行かなくても学習塾の授業で好成績を取っていれば登校したものとみなす。
127	計画的大量検査による新型コロナウイルスの根絶	短時間で検査可能なキットを用いて地域ごとに計画的に大量検査を行い、陽性患者を隔離する。感染症専門ではない医療従事者も所定の講習を受ければ隔離施設の軽症患者の指導・治療を可能にするといった方策により、隔離・医療体制を確保することで医療崩壊を防ぐ。
128	カンセン帽子	既存の感染防止対策であるマスクやフェイスシールドにおける日射病や持ち運びの困難さといった課題に対応するため、外周に柔らかい透明なビニールをとりつけた帽子を開発し、コンサート観覧時やスポーツ観戦時に使用してもらう。
129	コミュニティ冷蔵庫	ニューヨークに設置されている、街角に設置した冷蔵庫に余った食品等を持ち寄り、それを必要な人が手に入れられる「コミュニティ冷蔵庫」を東京にも設置することで、新型コロナウイルス感染症による収入格差拡大への対応や食品ロスの解消につなげる。
130	パッケンチョマスク	熱中症及び新型コロナウイルス対策のため、着用しながらストローで水分を補給できるプリーツタイプのマスクを作成する。
131	早期介護予防・健康づくり	高齢者の早期介護予防や健康づくりのため、Wi-Fi整備やローカル5Gエリアの拡大により、多地点リアルタイムコミュニケーションを実現し、地域活動や行政との協働事業を活性化する。施策の効果を測定し結果を公表することで、地域全体のボランティア事例として普及促進を行う。

No.	提案事項	提案要旨
132	区市町村道路の無電柱化促進のための側溝改良工事	無電柱化促進にあたり、区市町村道路の既設側溝の深さを2倍にして、2階建て構造に改良する。2階部分は簡易共同溝として防水給水管・防水送電ケーブル・防水通信ケーブルを装備。1階部分の通常時排水路に加え、2階部分を大雨・台風被害時に非常時排水路として活用すれば、概ね2倍の排水能力が期待できる。
133	ICT活用による乳幼児健診の混雑緩和と子育て支援	Web会議システムを活用したオンライン育児相談、eラーニングシステムを活用した育児指導など、ICTシステムを活用することで、オンラインによる子育て支援を可能とする。また、乳幼児健診の一部をオンラインによる受診とすることで、混雑緩和による感染予防、利便性向上による受診率の向上、職員や保護者の負担軽減を行う。
134	自己主権型IDを用いた新型コロナウイルス免疫証明システム	新型コロナウイルス感染症の免疫の有無をブロックチェーン技術を用いて記録するシステムを構築する。信頼できる保健機関が免疫証明を発行し、これを都民が自らブロックチェーンに記録することで、迅速な証明が可能になる。免疫証明の保持者は緊急事態宣言下でも行動が制限されない。
135	コロナ対応カレンダー	定期的に「ステイホーム期間」をカレンダーに組み込む。具体的には、7週間ごとに10日間、医療等の特定業種以外の人は外出禁止とする。
136	世界大都市との連携プラットフォーム	ニューヨーク、ロンドン、パリといった海外大都市とのコロナ対策・経済対策に関する知見共有・連携プラットフォームを立ち上げる。
137	東京都民の食料自給率を、全国基準を超える水準へ	農業の高度化及びAI活用、工場栽培や空き家の活用、シニア層の労働力を活かした援農ボランティア組織の組成等により東京都の食料自給率を高めることで、食料の安定供給につなげる。
138	三密回避策の実施と世界への発信	感染拡大を防止するための三密回避策として、都内の民間施設を含めた全施設の混雑状況をリアルタイムで収集し、マップサービスと連携して多言語で配信する。
139	都内の消毒、抗体研究等	都内の消毒、抗体研究、サービス業者へのPCR検査の義務付け、アルコール消毒液の都民への無料配布、仮設病棟の過疎地や都用地等への設置を行うべき。
140	消毒場所の拡充及び作業員等の公募	道路や公共施設等の消毒を実施する。消毒作業実施者や消毒液提供者は公募する。
141	街なかオフィス	公共空間において半屋外・屋外の「密閉」しない空間を提供し、仕事や日常の憩いの空間として活用できる場所「街なかオフィス」を導入する。具体的には、公園内への東屋的空間の設置、道路上への店舗の屋外席の設置を行う。
142	低コストで、全年齢の都民のあらゆるニーズに応えられるオンライン学習システム	期間・期限、学年・年齢、学歴、親の所得・教育方針、居住地にとらわれることなく、学びたい人が学びたいことを学びたいときに、自分に合ったやり方で自分に合った指導者に質問できる、オンライン学習システムを開発する。4月入学・始業にこだわることなく、随時入学・始業できる。

No.	提案事項	提案要旨
143	住民による分散型地産地消エネルギー生産方式と学校教育プログラムの開発	稲城市内を流れる三沢川や大丸用水など豊富な流水を利用して小水力発電を行う。また、親水公園などの清掃や付近での植樹、自然観察会、発電実験などを行うことで、流れる水の持つ自然の恵みやプラスチックごみが環境に与える影響などを学習できるようにする。
144	保温・保護機能サポーター＋強靱マスク機能の商品化	冬季対策として、強靱なマスクとしての機能と保温・保護機能を併せ持つものの開発と普及啓発を行う。
145	感染症専門病院の整備及び医療関係者の育成	新型コロナウイルスをはじめとする感染症専門の都立病院を整備するとともに、都職員である医療関係者の育成を推進する。
146	3密対策企業への補助金制度	テレワーク等、「3つの密」を避ける働き方を実践するための企業の取組に対する補助金制度を確立する。
147	失職者に対する会計年度任用職員としての採用及び起業・就業支援	コロナ禍により職を失う人々を、当面の措置として会計年度任用職員として採用し、都の「新しい日常」枠組み構築に参加してもらうとともに、起業（就業）を支援する。
148	抗ウイルス建材の積極的な使用	住宅や公共施設において、人が手を触れる可能性のある部位に抗ウイルス建材を使用することにより、建材を介した新型コロナウイルスの接触感染を防ぐとともに、消毒作業に必要な人員と時間を削減する。
149	営業時間の拡張とのんびりワークの推奨	公的機関、民間を問わず、営業している時間を引き延ばし、空間内の1時間当たりの人口密度を減らすことによって、感染リスクを低く保ちながらサービスを提供する社会を推進する。
150	緊急時のステイスクール	感染症の危険性が高まり、長期の一斉休校が求められるような事態が起きた場合、小中学校の全生徒、教職員を校内で宿泊させ、感染リスクを減少させる。
151	キヨリを超えた一体感で目指す音楽（文化・芸術）の維持・振興	5G等の活用により会場及び敷地内、遠隔会場（学校、映画館、屋外等）を双方向でつなぎ、各地域産業とも連携し共に発展する仕組みを作るなど、距離を超え一体感で盛り上がる仕組みを構築するとともに、教育機関との連携で技術の維持向上を図る。
152	日本人の遺伝子データを用いた新型コロナウイルスへの罹患・重症化リスクの解析及び社会実装方法の検討	日本人の遺伝子データと新型コロナウイルスへの罹患・重症度及び日常生活に関するアンケート回答を相関解析する。新型コロナウイルスとの関連性が示唆される遺伝子変異を同定することにより、ウイルスに対する個別化予防対策の推進及び適切な社会実装方法を考案する。
153	夏の日傘でソーシャルディスタンス	日傘を利用することで、2メートルの間隔を保ち、すれ違い時に傘を傾けシールドの役割として使えば、マスクを外すことが可能になる。併せて豪雨やビル風に強い、頑丈で大きめの兼用傘の開発を推進するとともに、歩行方向のエリア分けを促進する。

No.	提案事項	提案要旨
154	スマートウォッチによる重症者発見と保護の仕組み構築	血中酸素濃度測定機能の付いたスマートウォッチがウイルスにより心肺機能の低下した重症者を感知し、最寄りの医療機関と消防署へアラートを通知。通知を受け取った消防署が救急車を出動させ、医療機関に運び、重症者をいち早く治療できる仕組み及び体制を構築する。
155	東京都働き方改革宣言Ver2.0	働き方改革宣言企業制度の成果を踏まえ、都議会のオンライン化や都職員のテレワーク実施率を高め、その効果を都民に共有するとともに、都内企業に対してテレワークの浸透度等に応じて表彰や税制面での優遇等のインセンティブを与えることで、都全体でテレワークを拡大させ、感染症対策及び経済活性化につなげる。
156	位置情報の活用による公園の利用者数及び利用様態の把握	通信会社と連携して、公園利用者の位置情報を取得し、来訪元からの距離や移動の方法を明らかにすることで、身体機能の維持や心の安定などコロナ禍において公園が果たしている役割を明らかにする。また、大学等と連携して、利用者の距離情報や混雑状況に関するリアルタイム性が高いデータを分析することにより、感染リスクが小さい公園や時間を推定する。
157	生物情報の活用による魅力ある公園の創出	東京都が保有している都立公園に生息している生物データを、都民に分かりやすい形でWebにおいて公開することで、生き物探しという新たな公園の楽しみ方の機会を利用者に提供する。
158	浅草ルネサンス～コロナ時代の観光モデルの提案～	観光地の改善を通じたコロナと共生する街づくりとして、東京の浅草を代表として「東京モデル」を作り世界に発信していくため、オープン空間（屋外）とクローズ空間（屋内）に分けて浅草におけるコロナ対策を実施する。
159	盛り上げよう東京の店	休業要請に応じた各種飲食業・サービス業等のお店をテレビで取り上げCMを流すことで、より多くの集客につなげる。
160	都民が安心できる情報の構築	都が各分野の高度な専門家（博士号取得者）を多く採用し、知識が必要な情報の取扱いを担ってもらうことで、精度の高い情報を迅速に発信していく。
161	シェアしてユアコイン	「東京ユアコイン」を活用し、シェアサイクルの利用促進、利用上の安全の普及啓発、そして、シェアサイクルやMaaSに対する関係事業者や都民の理解・関心の向上を通じて、「新しい生活様式」に適した通勤通学モデルを模索する。※MaaS：Mobility as a Service（サービスとしての移動）。複数の交通手段を組み合わせ、アプリ等により一括検索・予約・決済を可能とすることで交通手段の最適化を図るという概念。
162	Beautiful Harmony after “COVID-19”	感染症対策の三権分立（東京都、医療機関及び専門家集団）を確立し、感染症及び未知の病原体に対応する機関を設立する。また、機能性布マスクを量産するとともに、夜の街の従業員に対し就職相談等を行う。
163	ウィズ/ポストコロナ時代のオンライン母子保健施策	ウィズ/ポストコロナ時代に求められる母子保健施策として、全都民がスマホで産婦人科医・小児科医・助産師へオンライン相談することを可能とするとともに、適切な情報発信も行う。高リスク者が見つかった場合、自治体へ情報提供を行い対面サポートにつなげる。
164	医療従事者に対する研修用シミュレータ・教材の貸出し	遠隔で密にならない医療研修体制を構築するため、医療研修用シミュレータ・教材（VR等）を一拠点に集約して整備し、希望病院・教育機関への貸出しを行うとともに、都内医学部等からの出前講義（オンライン・オンデマンドでの実習）を実施する。

No.	提案事項	提案要旨
165	オンライン授業を推進するための施策根拠の整理等	オンライン授業の受講を小中学校の指導要録上の出席と認め、オンライン授業を義務教育の新たな形態と位置付ける。また、小中学校におけるオンライン授業に必要な設備の導入や教諭の技能研修を支援するとともに、小中学生のオンライン授業受講環境を整える。
166	飲食店街の路上での青空フードコート	コロナ感染対策と飲食店存続の両立のため、飲食店街の車道に飲食店が自店のテーブル、椅子を配置できるようにし、臨時のフードコートを作る。
167	「職人塾」の多言語対応と動画教育の導入	日本の伝統工芸に興味関心がある人の「職人塾」への参加希望者を増やし、より多くの人に伝統工芸を知ってもらうため、HPやパンフレットを多言語化する。加えて、技能継承を今よりも短期間に進めるために、実習期間中は各事業者で動画も活用し、理解を深め効率よく技を学べるようにする。
168	夜の街緊急支援！オンライン営業に必要不可欠な飲食物デリバリープラットフォーム構築による事業支援	オンライン接客とフードデリバリーのプラットフォームを構築し、店に集客しなくても売上げが立つ仕組みを構築する。
169	駅前再開発における水害避難用駐車場の建設	駅前再開発において自走式立体駐車場のような形の水害避難用駐車場の建設を都が支援する。平時は、駐車場や移動販売等の場として利用、災害時は医療車両などの乗入れを可能とする。
170	ロボット消毒ソリューション	コロナ禍の経済活動を支援するため、広い空間を有する商業施設等における日常的な消毒作業の一部を、ドローンやロボットを活用して無人化・効率化する。
171	機械換気の計画的な実施及び放射による冷暖房の推進	感染リスクを減らすため、換気を機械換気により計画的に行うとともに、一般的なエアコンによる冷暖房の使用を控え、放射による冷暖房を推進する。
172	飲食店を救おう！	飲食店において、紙コップの糸電話での会話や手話による会話などを義務付け、故意にルールを無視する人に対して入店禁止の罰則などを定める条例を制定する。
173	テレワークの推進による混雑（密）の緩和	テレワーク推進により各企業においてオフィスを使用しない時間帯を、サテライトオフィスとして低額の使用料を設定して他企業社員等に貸し出す。
174	シェアリング イズ ケアリング ～災害時における民泊やホテルの活用～	災害時において、避難所の不足や避難所内での感染症蔓延を回避すべく、民泊施設やホテルが一時避難所として任意で提供する空き部屋を高齢者や妊婦が優先して利用できる制度をつくる。
175	在日外国人への支援策	国、自治体、NPOの行っている在日外国人向け支援策やよくある事例を集約し、多言語化された情報サイトを作る。掲示板形式で要望を受け付け、利用者目線で使い勝手を改善していく。



No.	提案事項	提案要旨
176	withコロナの運動アプリ	コロナ禍でも手軽に運動ができるよう、トレーニング成果の共有、見本となる筋トレ動画の視聴、トレーナーへチャットで質問、アプリユーザー同士での接触を避ける機能を搭載したフィットネスサービスのアプリを作成する。
177	校舎入口における接触感染の回避	接触による感染を予防するため、校舎の入口にICチップで開けるセンサー型の扉を設置する。
178	withコロナの個人スペース確保	個人スペース確保のため、消毒・換気・清掃が十分な貸出スペース（有料）を設置することや、仕切りやテント等により自宅に小さな囲まれたスペースを作ることを促進する。
179	コネクトトーキョー	都内の生徒がいつでも自由にパソコンやインターネットを利用できるよう、十分な数の情報端末を校内に配備し、通信環境を整備した教室を平日土日にかかわらず開放する。
180	地域包括ケア推進エコシステム	地域包括ケアを推進するため、医療機関及び介護・福祉関連組織をまたいだ情報共有・コミュニケーション・スケジュール調整インフラを実現可能な費用で、スピーディーに導入する。
181	東京笑うバス ー花 笑顔 バスー	東京に咲く自然の花々とアクリル板で作った押し花で、様々な人や東京に生息する動物の笑顔を描き、都営バスの全バス停の各所に飾る。
182	バーチャル観劇	都内のコンサートホール、劇場、博物館、美術館等の施設にバーチャル用のカメラを設置し、ステージ映像を配信する。観客は離れた場所からVRゴーグルをかけてコンサートや舞台、美術品を鑑賞、観劇する。
183	災害派遣人材の育成	YouTubeなどの動画で都民に災害対策の勉強をしてもらい、視聴者に有料でテストを実施して合格者に災害の時に仕事ができるパスを発行するなど、災害のプロフェッショナル人材を東京都が育成していく。
184	広い世代で繋がる交流イベント	広い世代での交流イベントの開催支援など、行政がコミュニティプラットフォームを作成することで、児童の感性を伸ばし将来活躍できる人材を育成する。
185	マスクの正しい所作を身に付け月2回検温日で新型コロナウイルス根絶を目指す	月2回住民全体で検温を行い、37度を超えた者は必ずPCR検査を受けることとする。住民には毎月検査を受けることを義務付ける一方で、年度単位で皆勤した場合は検査費用を全額免除として還付し、又は表彰する。また、マスクの性能別、利用場所別、気温別の正しい所作を身に付けるべく告知する。
186	ポストノーマルに対応した施策プロトタイプ組織	都+大学+住民が連携して施策プロトタイプ（仮設提案）を行うシステムを開発する。ビジョンドリブな施策にするため、デザイン思考を応用、大学研究を活用し、施策実施イメージの仮説構築を行い、ビジョンの見える化により住民視点での検証フェーズを構築する。大学との連携によりプロトタイプテストを行い、社会実装のプロセスを提案する。

No.	提案事項	提案要旨
187	国民全員検査	できるだけ短期間で、国民全員の抗原検査を行う。
188	東京リモート合唱団の編成と世界的リモート合唱団との連携	東京にもオフィシャルなリモート合唱団を結成し、各地、各国のリモート合唱団と交流して、新型コロナウイルスと闘うための意思統一を図る。
189	みんなの笑顔プロジェクト	街路灯、建物、道路といった公共物を利用して、子供達が描く絵画や医療従事者へのエール、学生達の作品など、みんなが笑顔になるアートを東京中に広げる。
190	NEW NORMALプロ客認定プロジェクト	新型コロナウイルス感染症対策の検定を作り消費者が全問正解すれば、「プロ客」認定をする。プロ客は外食に行くと割引を受けられるようにすることで、消費者側からもリテラシーを上げていく。
191	都立のフリースクールの設置	民間団体が経営するフリースクールはコロナ禍で経営が厳しくなり、不登校の子供の行き場が失われているため、都立のフリースクールを設置する。新しいかたちの小中高一貫教育校として教育委員会とも連携がとれ、子供達それぞれの個性を生かしたカリキュラムで活動できるものが望ましい。
192	withコロナの飲食店の回転率UPアプリ	飲食店の混雑状況をリアルタイムで確認でき、飲食店利用の時間制限をアラームでかける機能を実装したアプリを開発することで、混雑回避や利用客の回転率向上につなげる。
193	ひとり活動推進キャンペーン！	買い物や食事、宿泊など、都内での外出はひとりで行うことを推奨するため、飲食店やレジャーなどにおいて、ひとり客への割引やドリンクプレゼントなどの特典をつける。
194	Glocal Tokyo 2021	どんな人も頼れる存在である消防団を周知することで、安心安全なまちやコミュニティ作りに貢献し、居住空間としての東京の魅力を高める。また、感染症対策における語学能力を有する特殊技能団員の活用など、外国人が増加した地域コミュニティへの貢献により、GlobalとLocalの視点を併せ持つ東京を目指していく。
195	トラボレーション ～都内で感じる津々浦々～	日本各地の名産品を集めた物産展をオンライン及び実店舗で開催するとともに、都内ホテルのレストランでの地方の特産物を取り入れた料理の提供や、VRを使用したバーチャル旅行体験の企画を行うことで、東京にいながら地方を旅することができるようにする。東京と地方が手と手を取り合い、互いに支え合う関係を築く。
196	東京 smart work 宣言	都内に本社や事業所を置く従業員数10人以上の企業に対して、テレワーク計画の提出を要請する。手続はすべてオンラインで行い、必要に応じ条例を措置する。実施状況の監視及び制裁措置として、提出状況の公表や抜き打ちの実態調査などを行う。
197	若者応援プロジェクト 「希望の春」	若者（6歳から30歳）が持つ夢や希望を実現できるスキームを構築する。若者の夢や希望を作文方式でエントリー後、夢にかける思いを作文またはスピーチにしてもらい、都知事が審査し、未来の東京都に有意義な若者の夢を年間10件程度実現する。

No.	提案事項	提案要旨
198	TOKYO "Let's come together" Project	新型コロナウイルス感染拡大を防止するための「3つの基本」を軸とし、日々の生活を豊かにし、人々の心を癒やし、潤すことのできる、アートプロジェクト（ビジュアル構築、オブジェクト作品の製作、空間や街全体を舞台とした施策）を展開していく。
199	初心に立ち返り確実に効果があったことをしよう！	感染者数が急増している局面においては、自粛期間中に立ち返り、テレワークやリモート授業ができる企業や学校はこれらの取組を推進し、飲食店や映画館など外出を伴うサービスを提供している事業者は休業や営業時間短縮を行う。
200	ナッジ理論を用いた感染対策	店先のアルコール消毒の場所を目立たせるなど、市民の生活の隅々に意識的にナッジを利用し織り混ぜていくことで、人々に感染症対策の実施を促す。
201	ソーシャルクエスト	ゲーム感覚でメタ認知能力（自分の知覚・記憶などの認知能力がどのレベルであるかを客観的に知る能力）を習得できるアプリ「ソーシャルクエスト」を開発する。メタ認知能力の育成とゲームを通してオンライン授業へのやる気を引き出す。
202	対話授業で繋ぐ東京と世界：多様な観点から考える「格差」	感染問題により増大しつつある経済格差・教育格差について、日米それぞれの社会に照らし合わせ多彩な観点による論理的対話の講座を、日米の大学生を対象として遠隔で開講する。模擬裁判形式の法廷コミュニケーションゲームを楽しみつつ、より平等な社会を構築する上での解決策を議論する。
203	地下鉄出入口上部の余剰地を利用した喫煙所の設置	地下鉄出入口上部の空間を活用した喫煙所を設置することで、喫煙所の分散による密集防止、屋外を利用することによる密閉防止、回転テーブルを設けて距離をとることによる密接防止につながる。
204	17:00は自分を大切にすご自愛（05:0I）時間	夕方17:00からの15分間を身の回りのテレビやスマホなどのデジタルなメディアやデバイスから離れ、何も考えずに過ごす時間にする。脳を休ませ、自律神経を高めることで新型コロナウイルスに対する恐怖をやわらげる。
205	飲食ガード	自分自身と相手をそれぞれガードする囲いをアクリルボードなどにより作成することで、外食時に感染しないようにする。
206	ウイルスに反応する色	新型コロナウイルスに反応し発色する塗料を開発しマスクに用いることで、感染者の特定を行う。
207	花と水と緑の散歩道（誰もが歩ける散歩道）を	子供や高齢者が体を動かす機会を増やすため、誰もが安心して歩ける散歩道をつくる。